

ICTが拓くさまざまな応用開発

～生体計測、カラーユニバーサルデザイン、デザイン思考～

我が国は課題先進国と称されるように、諸外国に先んじて人口減少・少子高齢化が進み、ICTを導入・利活用して、雇用や生活の質、労働生産性の向上を積極的に進めて行くことがかねてより求められてきました。また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、ICTは、国民生活や経済活動の維持に必要な技術となり、これまでデジタル化が進まなかった領域にもデジタル化の波が押し寄せています。

そこで今回は、工学院大学より3名の講師をお迎えし、医療・福祉・デザイン各分野におけるICTの導入・利活用に関して、下記テーマでのご講演をお願いします。講演後には質疑応答の場も設けております。

つきましては、ICTによる技術開発や技術連携、工学院大学との産学連携に関心の高い企業の皆様の経営の一助となりますようご案内申し上げます。

◆講演会

①『生体計測技術と福祉応用』

講師：田中 久弥 工学院大学 情報学部 コンピュータ科学科 教授

講演概要 最新の生体計測技術により言葉や感情をコンピュータに伝えることができるようになってきました。これらの技術は身体が動かせない患者の生活を向上させる可能性があります。また認知症の早期発見に応用できます。

②『安全色彩とカラーユニバーサルデザイン』

講師：市原 恭代 工学院大学 情報学部 デザイン学科 准教授

講演概要 誰もが同じ色覚を持っているとは限りません。特に先天赤緑色覚異常は日本人の男性20人に1人、女性の500人に1人の頻度で見られます。ここでは、どんなふうになれば誰でも安全に指標やサイン、インターフェイスを扱えるかを考えます。

③『お客様に「いいね!」とだけ言っていたらサービス提供のために :

デジタル社会に貢献するデザイン思考要求工学のススメ』

講師：位野木 万里 工学院大学 情報学部 コンピュータ科学科 教授

講演概要 どのようなデジタルサービスを提供すればお客様に「いいね!」とだけ言っていたらいいのでしょうか?お客様の視点で、デジタルサービスの使われ方のシナリオや感じ方をモデリングしながらアイデアを形にしていく、デザイン思考要求工学の技術についてご紹介します。

◆質疑応答

日時：2020年12月11日(金) 13:30~17:00

会場：ZOOMウェビナーによるオンライン開催

参加費：無料

主催：工学院大学/リそな中小企業振興財団